

甲府ワインポートブドウ供給組合（甲府市）は、上旬から「デラウェア」を使った醸造用ワイン原料ブドウの収穫・搾汁作業を始めた。この

ほど東京都内の情報技術（IT）関連企業の関係者が、ブドウの収穫と搾汁体験をした。県の「やまなし企業の農園づくり推進事業」を活用した。

ワイン用ブドウ搾汁

アイドル「ぶどう党」も体験



収穫したブドウを搾汁機に掛ける「ぶどう党」のメンバー

同事業は、農地を有効活用し活性化を目指す農村地域と、農村資源を活用して、社員の福利厚生や地域貢献などに取り組みたい企業を県が仲介し、交流活動を深めるもの。

（株式会社）は、醸造用ブドウの栽培に取り組んでいる。この日は、同社の社員とブドウ同組合の協力を得ながら、アイドル「ぶどう党」と

甲府市の供給組合 31日に全国へ出荷

そのファンが、色づき始めた「デラウェア」の収穫・搾汁体験をした。搾りたての果汁も試飲した。

搾汁した果汁は、アルコール度8%、夏向きの酸の効いたさっぱり味のワインとなり、31日に今年度産としては最も早い新酒「ヌーヌーポー」として、全国に向け3000本が出荷される予定。参加した同社の社員や「ぶどう党」ファンも受け取る。

参加した女性社員は「農作業体験は、リフレッシュで楽しいし、自分たちで収穫したブドウのワインが飲めるのも待ち遠しい」と話した。（やまなし）